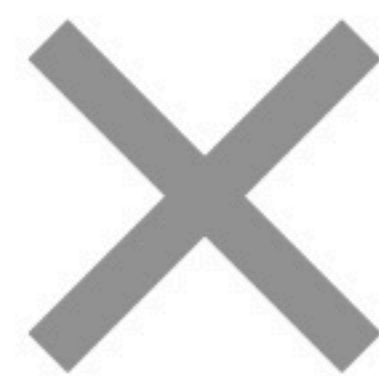




むすんで、うみだす。

京都産業大学



ベリタスアカデミー

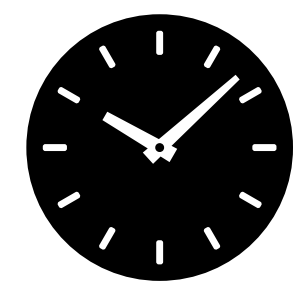
01

京都産業大学

一般選抜入試問題の

傾向

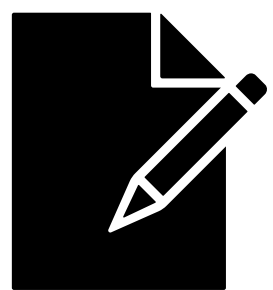
国語の試験時間と配点



試験時間

.....

80 分



配点

.....

100 点

一般選抜入試の問題構成

全問マーク式

	(一)	(二)	(三)
出題内容	評論文	小説文・随筆文	古文
設問数	8～9問	9問	6～7問
配点	40点	35点	25点
解答時間 目安	30分	25分	20分

＊2科目型では、〔一〕、〔二〕の大問2問構成

02

京都産業大学

一般選抜入試問題の

対策

POINT

リーズニング（理由づけ）を意識！

「なぜその答えになるのか」を本文からの根拠で説明できるように。正当探しは犯人探し。なんとなく感覚で選ぶのではなく、本文中の証拠⇨根拠となる文を探す練習をする。

↓必ず証拠を見つけてから解答すること！

〔一〕 評論文

評論文では、本文全体を完璧に理解するよりも、設問に必要な部分を正確に読み取る力が求められる。本文接続語などの論理標識に注目し、主張や因果関係を整理して読むことが重要。選択肢は感覚で選ばず、本文中の根拠をもとに判断する「リーズニング」が得点の鍵となる。漢字や評論用語といった知識もしっかりと身につけておく必要がある。

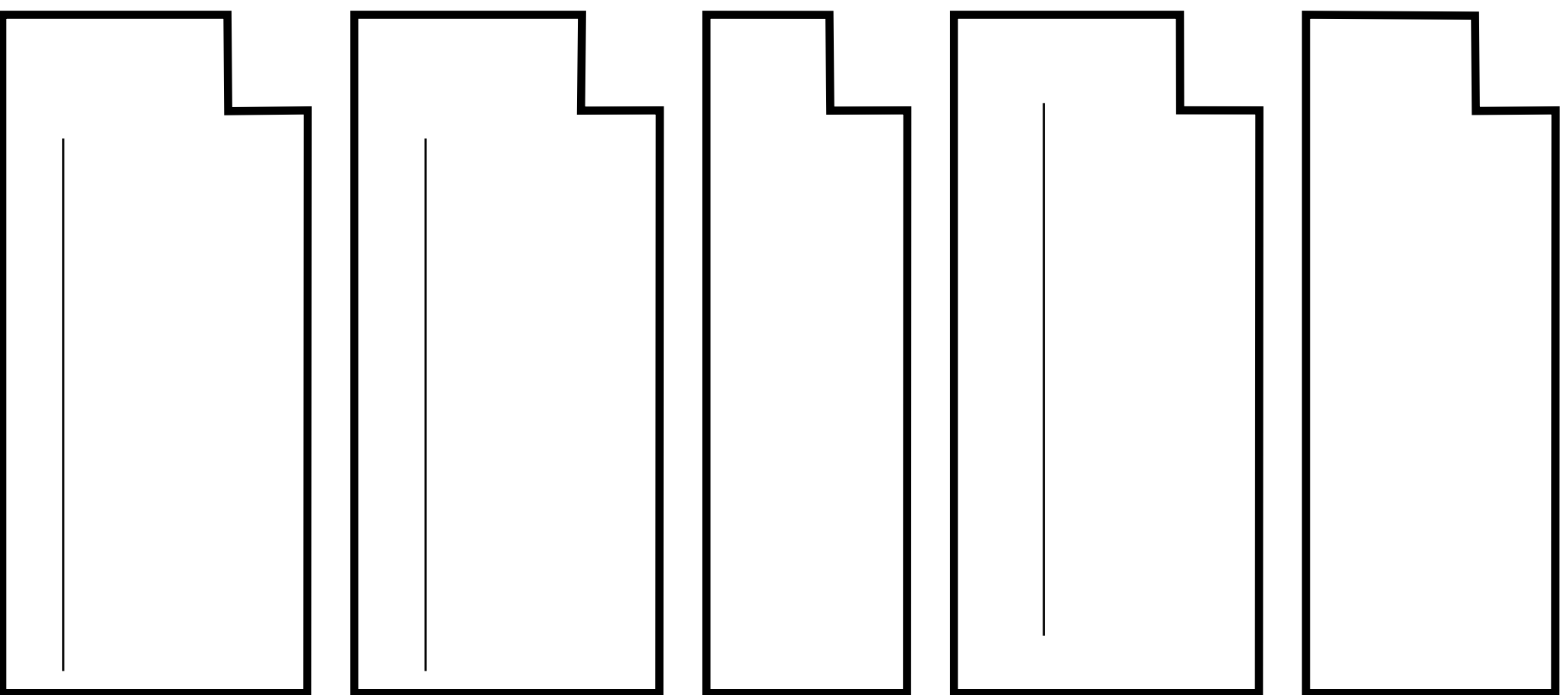
POINT

論展開のカタマリを見抜く！

評論文は、筆者の思考の流れ＝論展開（論理の進み方）で構成されている。

その中で、文章全体をいくつかの意味のブロック（段落群）に分けて読むことが大切。

本文を最初から最後まで同じ調子で読むのではなく、「どこで話題が変わったか」を見極めること。



POINT

論理標識（接続語）に注意する！

評論文は「論理」でつながっています。

「だから」「しかし」「たとえば」「つまり」などの
接続語＝論理標識を意識して読むことで、筆者の思考
の流れが見えてきます。



「しかし」「ところが」↓反対・逆接。筆者の主張が
現れる直前に多い。

「つまり」「要するに」↓まとめ。重要な結論が来る。

「たとえば」↓具体例。前の文の説明や補強。

「したがって」「ゆえに」↓結論。

💡読むコツ…接続語を見つけたら、その前後の文を

「因果・対比・具体例・結論」のどれかに分類して読
んでみよう。

POINT

パラフレーズを意識する！

パラフレーズとは、「同じ内容を別の言葉で言い換えること」。

現代文では筆者の主張が一度きりの表現で書かれることはほとんどなく、文中で繰り返す・対比・反転を使って多面的に説明されます。

つまり、設問を解くためには「言い換え表現」「同じ意味の再提示」を正確に見抜くことが欠かせません。

〔二〕次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

人間は自分自身の行動に対して責任をとらねばならない。それを身体との関連で言えば、自分の身体を自分でよく管理し、行動をコントロールできるようにしていないと、その責任をとることができない。そのために子どもたちは自分の体を自分の意志によってコントロールすることを学ばねばならないし、同時に、体力を強くしてゆくことも必要である。自分の体のコントロールができてくると、身体の動きを早く有効にするための練習も必要になってくる。素早い反応を形成するためには、瞬時の刺激として笛が有効な場合も生じてくるであろう。一瞬の笛の音に対して、ただちに身体が反応するように練習を重ねるわけである。

このように、身体の各部分の協調とか、〔1〕ジンソクな反応とかをつくりあげてゆくための練習などにおいては、^A笛を刺激として用いることが有効であるかもしれない。ところが一方で、身体を通じて成長や発達の過程を歩んでいくとき、身体による表現活動ということの重要性も無視することができない。外からの刺激に対してどのように反応するかだけではなく、身体の動きを通じて、自分の内にあるものを表現してゆくことも大切である。そこには「美」ということが関係してくる。身体の動きによって、美しさを感じさせる。あるいは動いている本人が、「美的感覚」を〔2〕キョウジユすることも、体育のねらいのなかにはいつてくるのである。

問二 傍線部A「笛を刺激として用いることが有効であるかもしれない」とあるが、笛を使用することでどのような効果があると筆者は考えているか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 子どもたちに自分の意志による行動と集団での責任ある行動とのけじめをつけさせるために瞬時の笛の刺激を利用し、自分自身の意志によって体力増進に取り組ませる効果。

2 子どもたちに自分の身体をコントロールすることを学ばせるねらいの中で、瞬時の笛の音に身体が反応するように練習させ、身体の素早い反応をつくりあげる効果。

3 瞬時の笛の刺激を利用することで子どもたちに自身の身体の各部分の協調を実感させると同時に、他者との関係において自らの行動に責任をとるということを学ばせる効果。

4 身体全体に行きわたるような瞬時の笛の音に従わせることで、子どもたちに集団の中での秩序ある素早い行動を学ばせ、身体の発達を促しつつ体力を増進させていく効果。

問二 傍線部A「笛を刺激として用いることが有効であるかもしれない」とあるが、笛を使用することでどのような効果があると筆者は考えているか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 子どもたちに自分の意志による行動と集団での責任ある行動とのけじめをつけさせるために瞬時の笛の刺激を利用し、自分自身の意志によって体力増進に取り組ませる効果。

2 子どもたちに自分の身体をコントロールすることを学ばせるねらいの中で、瞬時の笛の音に身体が反応するように練習させ、身体の素早い反応をつくりあげる効果。

3 瞬時の笛の刺激を利用することで子どもたちに自身の身体各部分の協調を実感させると同時に、他者との関係において自らの行動に責任をとるということを学ばせる効果。

4 身体全体に行きわたるような瞬時の笛の音に従わせることで、子どもたちに集団の中での秩序ある素早い行動を学ばせ、身体の発達を促しつつ体力を増進させていく効果。

ただ、「表現活動」というときに注意しなければならぬことは、ある人間の内面に、表現すべき内容 $\times$ がすでに存在し、その文をいかにして身体によって表現するのか、というように、図式的に継時的にのみ考えるのは、あまりに一面的だということである。これとは逆に、身体をいろいろと動かしてみているうちに、ああこんなことも表現できるのだとか、こんな表現が自然に出てくるものだ、というようなことを実感する場合もある。極端なことを言えば、身体を動かしているうちに、自分の表現したいことがわかってくることさえあるはずである。^Bそれは継時的ではなく共時的な体験である。

「自由」な空間と時間が保障されるとき、人間の心も体も何らかの表現を生み出そうとする。そこに生まれてくるものは、本人の意識や、通常の行動を超えるものであることもある。つまりそれは、創造の行為なのである。スポーツの場合でもそれに熱中すると、通常的能力以上のものが引き出されてくることがある。このように、何かきまりきったものの存在を仮定し、それが表われてくるというよりは、表現行動によってそれまで本人も意識していなかったものが⁽³⁾カンキされ、形をつくり、逆に内からの衝迫が表現を生み出して、単純に原因・結果という関係にのみ還元しえない行動が生じてくるところに、創造の本質が存在している。そのようなことを身体を通して体験するところに、体育のひとつの課題がある。

問三 傍線部B「それは継時的ではなく共時的な体験である」を説明したものととして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 身体による表現活動においては、子どもたちがその表現すべき内容をすでに持っていて、指導や何らかの機会を通してそれがそのまま引き出されるとは限らず、子どもたちが身体を動かしていると同時にそれまで自分が意識していなかった表現したいことを発見し、実感することがあるということ。

2 身体の内部から美しい動きを引き出し、身体を通して美的な体験をさせることも体育のねらいのひとつであるが、子どもたちはその表現すべき内容を持っておらず、身体を動かしながらでなければ、自分の望む表現を発見・理解することができないということ。

3 身体による表現活動においては、子どもたちがその表現すべき内容をすでに持っていて、指導や何らかの機会を通してそれがそのまま引き出されるとは限らず、身体を動かしながら子どもたちの内なる創造的感性を呼び覚まし、その表現方法を追求させる方がよいということ。

4 身体の内部から美しい動きを引き出し、身体を通して美的な体験をさせることも体育のねらいのひとつであるが、子どもたちはその表現すべき内容をすでに持っているとは限らず、身体を動かしながら自分の望む表現方法を確立させなければならないということ。

問三 傍線部B「それは継時的ではなく共時的な体験である」を説明したものととして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 身体による表現活動においては、子どもたちがその表現すべき内容をすでに持っていて、指導や何らかの機会を通してそれがそのまま引き出されるとは限らず、子どもたちが身体を動かしていると同時にそれまで自分が意識していなかった表現したいことを発見し、実感することがあるということ。

2 身体の内部から美しい動きを引き出し、身体を通して美的な体験をさせることも体育のねらいのひとつであるが、子どもたちはその表現すべき内容を持っておらず、身体を動かしながらでなければ、自分の望む表現を発見・理解することができないということ。

3 身体による表現活動においては、子どもたちがその表現すべき内容をすでに持っていて、指導や何らかの機会を通してそれがそのまま引き出されるとは限らず、身体を動かしながら子どもたちの内なる創造的感性を呼び覚まし、その表現方法を追求させる方がよいということ。

4 身体の内部から美しい動きを引き出し、身体を通して美的な体験をさせることも体育のねらいのひとつであるが、子どもたちはその表現すべき内容をすでに持っているとは限らず、身体を動かしながら自分の望む表現方法を確立させなければならないということ。

（二）小説文・随筆文

小説文は感情を想像で読むのではなく、本文中の描写やセリフなどの根拠から人物の心情を読み取ることが大切。心情の変化や対比に注目し、表現の意図を考えることで設問に正確に対応できる。

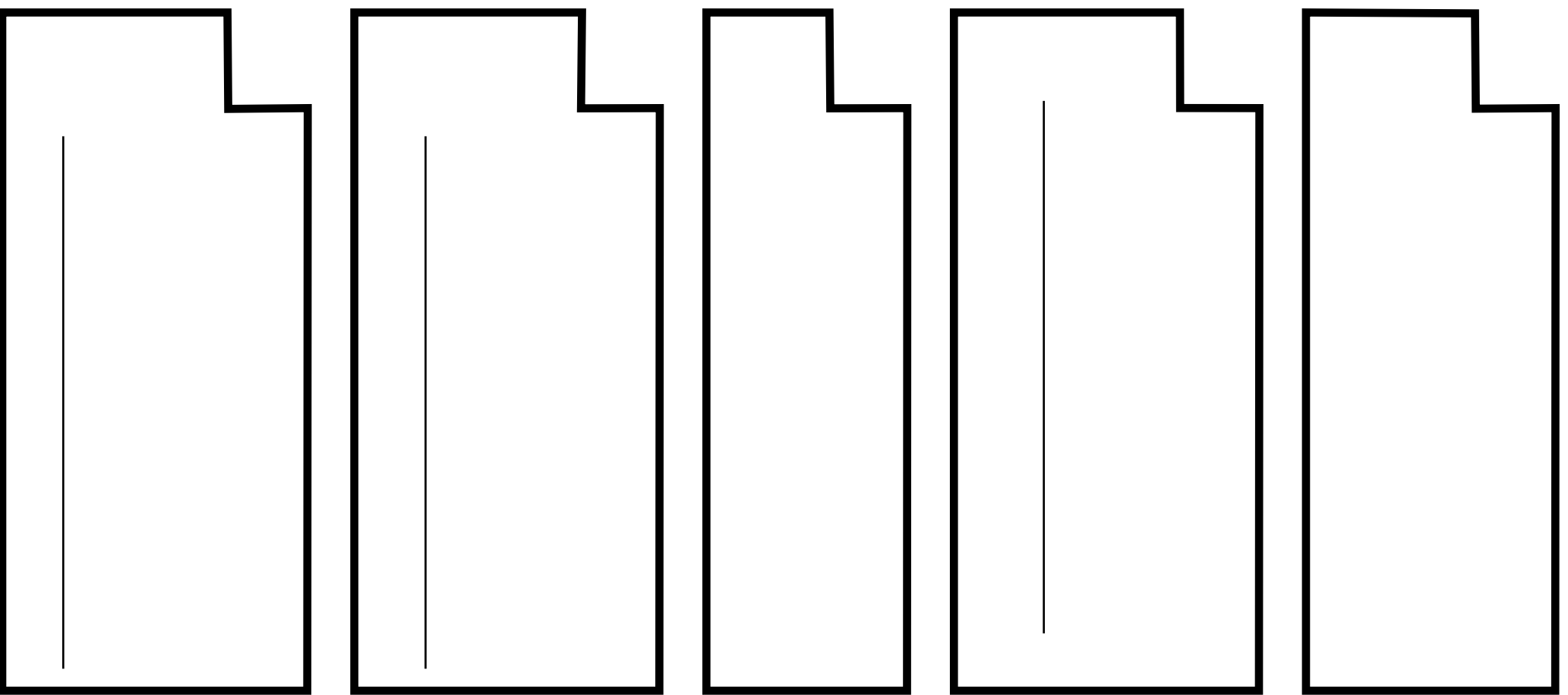
また、随筆文は、筆者の体験や感想の中にある「考え方の核」をつかむことが重要。感情的な語りに流されず、主張・比喩・引用の意図を整理して読むことで、設問の根拠を的確に見つけ出せる。

POINT

場面のカタマリを見抜く！

小説文では、物語を細かく読むよりも、どこで場面が変わるかをつかむことが大切。時間・場所・登場人物が変化すると場面が変化します。場面が変わると、登場人物の心情・関係・状況が変化し始めます。

こうした「場面のカタマリ」を意識して読むと、心情変化の流れが掴めます。



POINT

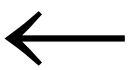
心情の流れをとらえる！

小説文では、登場人物の感情をそのまま書かず、行動や描写・セリフを通して間接的に表すことが多い。

だからこそ、「どうしてその気持ちになったのか」「その後どう行動したのか」という前後の流れを追うことが大切。

登場人物の感情は、次のような因果の連鎖で動く。

原因（出来事）



思考・判断



心情



行動（表出）

〔二〕次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

北海道の函館に住む主人公の真子が六歳になる頃、家に生後二ヶ月ぐらいの子猫が迷い込んできて、結局、家で飼われることになった。みゃーという名前になったその猫の鳴き声は、人の言葉を真似しようとしているかのような奇妙なものだった。真子は話すことが苦手だったが、みゃーに対しては言葉がスムーズに出るようだった。真子が、みゃーと、毎日は過ごせなくなる時期を迎えたのは、大学生活が始まる頃だった。

大学のある札幌に部屋を借りた一年めの夏休みは、家に帰る余裕もなかった。理系の学部授業についていくには特に猛勉強が必要で、（ア）癖のある先輩たちとの関係性からも逃れられず、時間が瞬く間にすぎた。

こうして帰られたのは、十月。母さんの誕生日と重なった週末だ。

玄関には真っ先に、みゃーが犬のように出迎えてくれた。「ただいま」の声を出すか出さないかのうちだった。

「よく判ったね、みゃー」半ば抱き締めて愛猫を撫で回す。

問一 傍線部（ア）の本文中の意味として最も適切
なものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

（ア） 癖のある

1 個性が強い

2 理想が高い

3 品性が低い

4 性格が悪い

問一 傍線部（ア）の本文中の意味として最も適切
なものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

（ア） 癖のある

1

個性が強い

2

理想が高い

3

品性が低い

4

性格が悪い

「急に駆け出していったよ」驚き感心したように言つて、母さんも姿を見せる。

お誕生日おめでとつと伝えると、

「めでたくないよ。箱入り娘も今ではぎっちぎちだもの」と、お腹の肉をさすって見せる。

多少肉がついているのは歳相応。華やぎもある雰囲気はしぼんでいない。

最後に顔を覗かせた父さんもいい感じの初老で、八年前に独立して映像作家となり、この自宅にスタジオを構えている。スタジオといつても、機材を置ける程度に広げた納戸のようなもので、小さなスペースだった。

久しぶりに親子二人で話す間、真子は膝の上のみゃーにも声をかけた。ガムでも噛んでいるかのように口を動かす、みゃーもなにかを話している。

食べたり飲んだりの時間も過ぎると、みゃーは陽の当たるサークルの横に行つて体を休めた。

「夏でも、暖かな場所を見つけて眠ることが多くなつたよ」父さんが言った。

みゃーのエサの袋が、今までと違う種類になっていることに真子は気がつき、それを口にするのと、

「前のは食べづらそうになってね」と、母さんは少し

（イ）気づかわしげだ。「柔らかいカリカリに変えたんだよ」

歯が弱くなった……？ 春にはなかったことが、いろいろと耳に入る。

問一 傍線部（イ）の本文中の意味として最も適切
なものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

（イ） 気づかわしげ

- 1 手間がかかって忙しそう
- 2 現状について不本意そう
- 3 予期しないことに不安そう
- 4 成り行きについて心配そう

問一 傍線部（イ）の本文中の意味として最も適切
なものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

（イ） 気づかわしげ

- 1 手間がかかって忙しそう
- 2 現状について不本意そう
- 3 予期しないことに不安そう
- 4 成り行きについて心配そう

「みゃーは、歳取っちゃったの?」

「そりゃあ、おばあさんにもなるわよ。十三年だもの」
母さんの視線の先で、しっぽを鼻先までもってきて、みゃーは丸くなっている。

「A家の中に母さんより年上の女がいるのは嬉しいけどね」

毛並みの艶やかさを取り戻させようとするかのように、茶色い縞の背中で木漏れ日が揺れる。

「でもまあ、老先生には感謝しなくちゃ」

「先生?」

「ちっちゃかったあなたは、人前で話すことに供えているような子だったけど、練習相手になってくれたみゃーのおかげで克服できたようなものよ」

「そうだっけ……」

自分の負の姿は記憶が封印しているのかもしれないが、子供時代からのみゃーとの思い出は、億という数を超えて溢れるほど残っている。

今はそのみゃーが時々、サークルの中ではなく真子の布団で一人で寝ている夜があると聞けば、目頭が熱くなりもする。でも、条件のいいペット可の部屋が見つからなかったし、父さんがみゃーを猫かわいがりしているというのだから、Bみゃーに「言いそっになる」「ぐめんね」の言葉もみ込まざるを得ない。父さん母さんにとっても、みゃーは家族なのだ。

その夜何ヶ月ぶりかで、真子とみゃーは一つの布団で寝た。

問二 傍線部A「家の中に母さんより年上の女がいるのは嬉しいけどね」と言ったときの「母さん」の気持ちを説明したものととして 最も適切なものをつ選び、マークせよ。

1 同じ「女」のみやーと一緒に生活しながら、自分の老いについて真剣に考えることで、真子を安心させてやりたい。

2 同じ「女」のみやーをライバルに見立て、自分の方が若いという冗談を言うことで、真子の心配をやわらげたい。

3 同じ「女」のみやーと一緒に生活しながら、老いを前向きに受け入れることで、真子に対して模範を示したい。

4 同じ「女」のみやーをライバルに見立て、若さを競い合いながら美貌を保つことで、真子から尊敬してもらいたい。

問二 傍線部A「家の中に母さんより年上の女がいるのは嬉しいけどね」と言ったときの「母さん」の気持ちを説明したものととして 最も適切なものをつ選び、マークせよ。

1 同じ「女」のみやーと一緒に生活しながら、自分の老いについて真剣に考えることで、真子を安心させてやりたい。

2 同じ「女」のみやーをライバルに見立て、自分の方が若いという冗談を言うことで、真子の心配をやわらげたい。

3 同じ「女」のみやーと一緒に生活しながら、老いを前向きに受け入れることで、真子に対して模範を示したい。

4 同じ「女」のみやーをライバルに見立て、若さを競い合いながら美貌を保つことで、真子から尊敬してもらいたい。

問三 傍線部B「みゃーに言いそつになる『ごめんね』の言葉も呑み込まざるを得ない」と真子が考えるのはなぜか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 自分を慕うみゃーと一緒にいられないことは申し訳ないが、大きな愛情を注ぐ父さんの方に今ではなついているので、みゃーに謝る必要はもうなくなつたから。

2 自分がみゃーと一緒にいられないことは仕方がなく、大きな愛情を注ぐ父さんの方に今ではなついているので、みゃーに謝ることはもう諦めざるを得ないから。

3 自分を慕うみゃーと一緒にいられないことは申し訳ないが、父さん母さんがみゃーを家族として十分に大切にしているので、みゃーに謝るのはおこがましいから。

4 自分がみゃーと一緒にいられないことは仕方がなく、父さん母さんがみゃーを家族として十分に大切にしているので、みゃーに謝ると切なくなってしまうから。

問三 傍線部B「みゃーに言いそうになる『ごめんね』の言葉も呑み込まざるを得ない」と真子が考えるのはなぜか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 自分を慕うみゃーと一緒にいられないことは申し訳ないが、大きな愛情を注ぐ父さんの方に今ではなついているので、みゃーに謝る必要はもうなくなつたから。

2 自分がみゃーと一緒にいられないことは仕方がなく、大きな愛情を注ぐ父さんの方に今ではなついているので、みゃーに謝ることはもう諦めざるを得ないから。

3 自分を慕うみゃーと一緒にいられないことは申し訳ないが、父さん母さんがみゃーを家族として十分に大切にしているので、みゃーに謝るのはおこがましいから。

4 自分がみゃーと一緒にいられないことは仕方がなく、父さん母さんがみゃーを家族として十分に大切にしているので、みゃーに謝ると切なくなってしまうから。

〔三〕 古文

古文は、語彙や文法、敬語表現などの基礎知識をもとに、登場人物の立場や感情を正確に読み取ることが大切。背景となる文化や価値観を理解し、省略された主語や指示語の内容を補いながら筋を整理することで、設問の根拠を正しくつかめる。

POINT

単語力を固める！

古文単語は、現代語と共通している言葉もあるが、問題で狙われる重要単語は似ている言葉でも意味がまったく違ふことが多い。

たとえば

「あはれ」＝しみじみとした情趣

(×かわいいそう)

「いたづら」＝むなしい・無駄

(×悪ふざけ)

「すごし」＝もの寂しい

(×すごい)

丸暗記するのではなく、単語帳の解説などを読み込んで記憶のフックを作って繋げて理解していくのがおすすめ。

POINT

文法力を固める！

古文文法は本文を正しく理解するための手がかり。現代語と文法のルールが大きく違うため、文法知識がないと主語や、心情変化などが正しくつかめません。設問も文法事項をポイントとして解く問題も多くあります。

用言・助動詞・助詞・敬語法といった文法項目に何度も繰り返し取り組み、早期に文法力を確かなものにしておくことが重要です。

POINT

主語の省略や指示語が読解のカギ！

日本語は主語を省くことが多く、古文や現代文では特に「誰の行動・気持ちなのか」が書かれていません。

また、「これ」「それ」「こうした」などの指示語も、前後の文脈を読まないと意味があいまいになります。

この2つを正確につかむことが、読解の論理のつながりを理解する第一歩です。

主語の省略は、場面をしっかりとイメージしながら、動作・心情などから「誰が」を掴みます。敬語や接続助詞なども活用して、まずは「誰が」「どうした」のかという大きなあらすじを読み取っていきましょう。

〔三〕 次の文章は「源氏物語」の一節である。帝の第二皇子である光源氏は十二歳になり、成人の儀である元服をとり行ない、左大臣の娘と結婚することになる。読んで後の問いに答えよ。

（注1）引入れの大^み臣の、（注2）皇女腹にただ一人かしづきたまふ御むすめ、春宮よりも御気色あるを、

思しわづらふ^aとありけるは、この君に奉らむの御心なりけり。内裏^{うち}にも、御気色賜^{たま}はせたまへりければ、
「さ^{うしろ}らば、この折の後見^{うしろみ}なかめるを、（注3）添臥^{そひぶし}
にも」
ともよほさせたまひければ、さ思したり。

注

- 1 引入れの大^み臣―元服の儀式の際、冠をかぶらせる役割をする大臣。
- 2 皇女腹―皇女である妻が生んだ子。
- 3 添臥―春宮や皇子が元服する夜、公卿の娘が添い寝すること。

問二傍線部 a 「思しわづらふ」、 b 「まかでたまひて」の主語の組み合わせとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

- | | | |
|---|----------|----------|
| 1 | a ― 大臣 | B ― 御むすめ |
| 2 | a ― 御むすめ | B ― 御むすめ |
| 3 | a ― 春宮 | B ― 源氏 |
| 4 | a ― 大臣 | B ― 源氏 |
| 5 | a ― 御むすめ | B ― 大臣 |
| 6 | a ― 春宮 | B ― 大臣 |

問二傍線部 a 「思しわづらふ」、 b 「まかでたまひて」の主語の組み合わせとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

- | | | |
|---|----------|----------|
| 1 | a 大臣 | B 御むすめ |
| 2 | a 御むすめ | B 御むすめ |
| 3 | a 春宮 | B 源氏 |
| 4 | a 大臣 | B 源氏 |
| 5 | a 御むすめ | B 大臣 |
| 6 | a 春宮 | B 大臣 |

（注4）さぶらひにままかでたまひて、人々大御酒おほみきな
ど[×]参るほど、親王たちの御座の末に源氏着きたま
へり。大臣^Y気色ばみきこえたまふことあれど、も
ののつつましきほどにて、ともかくもあへしらひき
こえたまはず。

4 注
さぶらひ―休息所。

問二傍線部 a 「思しわづらふ」、 b 「まかでたまひて」の主語の組み合わせとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

- | | | |
|---|----------|----------|
| 1 | a 大臣 | B 御むすめ |
| 2 | a 御むすめ | B 御むすめ |
| 3 | a 春宮 | B 源氏 |
| 4 | a 大臣 | B 源氏 |
| 5 | a 御むすめ | B 大臣 |
| 6 | a 春宮 | B 大臣 |

問二傍線部 a 「思しわづらふ」、 b 「まかでたまひて」の主語の組み合わせとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

- | | | |
|---|----------|----------|
| 1 | a 大臣 | B 御むすめ |
| 2 | a 御むすめ | B 御むすめ |
| 3 | a 春宮 | B 源氏 |
| 4 | a 大臣 | B 源氏 |
| 5 | a 御むすめ | B 大臣 |
| 6 | a 春宮 | B 大臣 |

問一 傍線部×の現代語訳として最も適切なものを
それぞれ一つずつ選び、マークせよ。

× 参る

1 お注ぎになる

2 お飲みになる

3 持っていらっしやる

4 買っていらっしやる

問一 傍線部×の現代語訳として最も適切なものを
それぞれ一つずつ選び、マークせよ。

× 参る

1 お注ぎになる

2 お飲みになる

3 持っ*て*いらっ*し*やる

4 買っ*て*いらっ*し*やる

問一 傍線部Yの現代語訳として最も適切なものを
それぞれ一つずつ選び、マークせよ。

Y 気色ばみきこえたまふ

- 1 さりげなくお恨み申し上げなさる
- 2 腹立たしげな様子を見せ申し上げなさる
- 3 それとなくほのめかし申し上げなさる
- 4 機嫌を取るようにほほえみ申し上げなさる

問一 傍線部Yの現代語訳として最も適切なものを
それぞれ一つずつ選び、マークせよ。

Y 気色ばみきこえたまふ

- 1 さりげなくお恨み申し上げなさる
- 2 腹立たしげな様子を見せ申し上げなさる
- 3 それとなくほのめかし申し上げなさる
- 4 機嫌を取るようにほほえみ申し上げなさる

問四 修線部Bの和歌「結びつる心も深き元結に濃き紫の色しあせずは」を説明したものとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 Aの和歌に対し、光源氏が健康に長寿を保つことを深く祈りながら元結を結んだことを述べ、その元結の濃い紫の色があせないのと同じく、光源氏がますます繁栄することは間違いない、と保証している。

2 Aの和歌に対し、光源氏と娘の夫婦仲が末永く続くように深く祈りながら元結を結んだことを述べ、その元結の濃い紫の色が変わらないように、二人の将来の幸福は間違いない、と保証している。

3 Aの和歌を受けて、心をこめて元結を結んだことを述べ、その元結の濃い紫の色があせないのと同じく、光源氏が変わることなく長寿を保ち、ますます栄えていってほしい、と祈る気持ちを詠んでいる。

4 Aの和歌を受けて、心をこめて元結を結んだことを述べ、その元結の濃い紫の色が変わらないように、光源氏が娘と結婚しても、末永く心変わりすることなく添い遂げてほしい、と祈る気持ちを詠んでいる。

問四 修線部Bの和歌「結びつる心も深き元結に濃き紫の色しあせずは」を説明したものととして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 Aの和歌に対し、光源氏が健康に長寿を保つことを深く祈りながら元結を結んだことを述べ、その元結の濃い紫の色があせないのと同じく、光源氏がますます繁栄することは間違いない、と保証している。

2 Aの和歌に対し、光源氏と娘の夫婦仲が末永く続くように深く祈りながら元結を結んだことを述べ、その元結の濃い紫の色が変わらないように、二人の将来の幸福は間違いない、と保証している。

3 Aの和歌を受けて、心をこめて元結を結んだことを述べ、その元結の濃い紫の色があせないのと同じく、光源氏が変わることなく長寿を保ち、ますます栄えていってほしい、と祈る気持ちを詠んでいる。

4 Aの和歌を受けて、心をこめて元結を結んだことを述べ、その元結の濃い紫の色が変わらないように、光源氏が娘と結婚しても、末永く心変わりすることなく添い遂げてほしい、と祈る気持ちを詠んでいる。